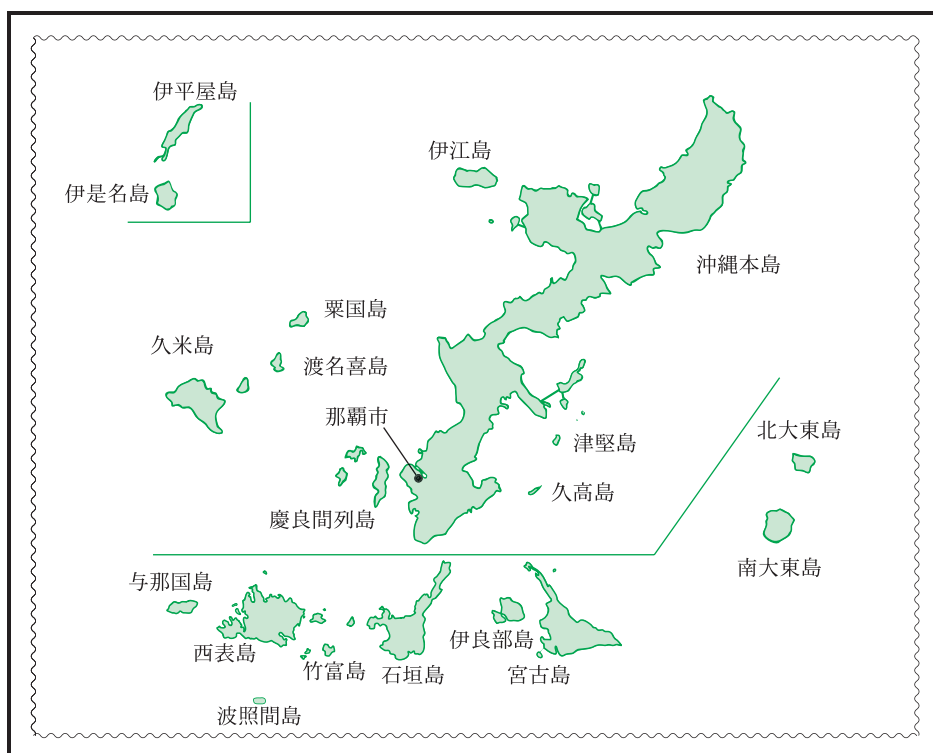




沖縄県小学校長会
沖縄県中学校長会

第 82 号

会 報



も く じ

1. 沖縄県中学校長会 会長あいさつ

県中学校長会会長に就任して
～予測困難な社会を逞しく生き抜く子どもたちの
人材育成のために～
沖縄県中学校長会 会長 仲盛 康治 … 1
那覇市立城北中学校 校長

2. 新任校長としての抱負

(1) ふるさと首里を誇りとした「自立した学習者」の育成を
培う学校づくり
～子ども主体の学びをつくる地域連携型教育課程と
授業改善の実践～
那覇市立城西小学校 校長 仲地 千佳 … 2
(2) 『和の心』を胸に自立的に学び、考え、実行できる
生徒・教職員の育成を目指して
糸満市立三和中学校 校長 宮里 直哉 … 3

3. 特色ある学校づくり

(1) 『学び合い』とSSTを通じた「つなぐ」を意識した
学校づくり
多良間村立多良間小学校 校長 与座 篤 … 5
(2) 地域とともに、笑顔あふれる学校をめざして
石垣市立富野小中学校 校長 市原 教孝 … 7

4. 校長講話

(1) 元気に、そして思いやりのある子への願いを込めて
名護市立久辺小学校 校長 上間 享 … 9
(2) 未来を切り拓く嘉中生の姿を求めて
～人間性の涵養～
嘉手納町立嘉手納中学校 校長 長 嶺 加恵美 … 11



県中学校長会会長に就任して

～予測困難な社会を逞しく生き抜く子どもたちの人材育成のために～

沖縄県中学校長会 会長
那覇市立城北中学校 校長 仲盛 康治

はじめに

令和四年度第六十四回定期総会で金丸利康前会長の後を引き継ぎ中学校長会会長に就任いたしました。

昨年度は、副会長を仰せつかり、各地区小・中学校長会から要望のあった教育課題の課題解決等に取り組んでまいりました。昨年度の経験を生かし、皆様と心をつなぐ一つにして最善を尽くして職責を全うしていきたいと考えています。

県小・中学校長会は、これまで本県教育の充実・発展のため、研究と実践を重ねるとともに教育活動の諸条件整備に努め、様々な成果をあげてきました。しかし、依然として続く新型コロナウイルスによる社会活動の制約は、学校現場はもちろん、校長会の運営にも大きな影響を受け、二年連続県や全国・九州地区研究大会もほとんどにおいて誌上開催となりました。これまで当たり前に行っていた教育活動が制限された一方、新しい時代へ向けた教育改革がGIGAスクール構想、また、新しく就任された半嶺満県教育長から、沖縄教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入（デジタル化よりも進んだ学習、組織、業務の革新）等、新たな風が吹いております。我々には、予測困難

な社会をたくましく生き抜く子どもたちの育成が託されており、これまで以上に創意工夫を凝らし子どもの学びを保障し、令和の日本型教育の実現に向け一致団結していきましょう。これから進む教育改革の中、私たち校長は、「不易と流行」を見極め、教育活動を推進しなければなりません。このような時期に県校長会として、今年度の活動方針を踏まえ、次のことに力を入れていきたいと思っております。

一 率先垂範して行動する校長会

校長は、保護者・地域から信頼される学校づくりに邁進すべく、「県民の負託に応える」学校経営を進めていく必要があります。

さらに学校経営において中核をなす「生きる力」を育む理念の推進、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善等、創意ある教育課程の実施・評価・改善に努めなければなりません。

そして令和四年度に示された沖縄県学力向上推進五カ年プランプロジェクトII重点事項の「自立した学習者の育成」「中学校期の学力課題の改善」の具体的な取組を校長が率先垂範して教育活動を

推進することが重要となります。

二 働きがいのある教育現場の実現

昨今、教員不足が叫ばれており、各学校現場は人材確保に難渋しております。教職員一人一人が研修を通して常に学び合い、専門職としての誇りと自覚を高め、個々の資質能力の向上、学校経営への参画意識を高めながら、働きがいのある学校づくりが大切です。そうすることで、魅力ある職業として教師を目指す人材を増やし、教育の質と量を高めることが出来ると考えています。

また、教職員の超過勤務、感染防止対策等の対応、部活動の地域への移行等、働き方改革の推進が重要です。「子どもと向き合う時間の確保」「教材研究の時間の確保」のために、更なる教育課程の工夫や業務改善、地域人材活用等の創意工夫と実践を推進していきましょう。

おわりに

校長が研究を深め資質向上を図る研修の機会である研究大会と県校長会の活動方針の趣旨徹底と重要課題等についての情報交換の場である地区教育懇談会は、県校長会の重要な二本柱の活動です。

しかし、依然新型コロナウイルス禍による影響を受け、「各学校校長は学校を守る」という趣旨で今年度も参集しての大会を断念せざるを得ない状況となりました。しかしながら我々の使命として、創意工夫しながら魅力ある学校づくりに向け、創意工夫をして次につなげて参る所存です。

また、本年度は、本県の祖国復帰五十年を迎える節目にあたります。予測困難な社会を自ら切り拓き、逞しく生き抜く子どもたちの人材育成のために「チーム校長会」として心をつなぐ一歩を踏み出しましょう。

新任校長としての抱負



ふるさと首里を誇りとした 「自立した学習者」の育成を培う学校づくり 子ども主体の学びをつくる地域連携型教育課程と授業改善の実践

那覇市立城西小学校 校長 仲地 千佳

一 はじめに

本校は、首里城のお膝元、古都首里真和志町にあり、よき伝統と地域に支えられた学校です。学校周辺には、首里城跡や園比屋武御嶽石門、玉陵の世界遺産をはじめ、重要な史跡が集中し、「歴史の風薫るまち」として知られています。明治十九年、首里小学校女子教場として創立されて以来、保護者、地域の方々、そして教師集団により、脈々と続く「我がが学校」という教育愛、地域愛などの熱い想い一つになり、現在の素晴らしい校風が築き上げられています。

三年前、首里城正殿が原因不明の火災で消失、その後新型コロナウイルス感染症パンデミックと、静まりかえった首里の町。ようやく行事再開や「正殿完成まであと四年」との明るいニュースも飛び込む中、教育活動を円滑に進め、活気ある城西っ子を「地域にかえす（恩返しする）」取組を行っています。

二 本校の主な取組

本校の教育目標「よく学ぶ子」「明るい子」「健康な子」と那覇市小中一貫教育首里中グループ統一目標「ふるさと首里を誇りとし、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成」実現に向けた取組

を実践しています。

(一) 地域連携型教育課程の実践

首里公民館、賛同者によるクラブ活動、学習支援ボランティアによる読書推進活動、交通安全見守り等、日頃から「城西っ子」の健やかな成長のために、地域の方々から多くの指導や支援を受けています。これらは、年間指導計画に位置づけ、総合的な学習の時間を中核とした教科横断的で特色ある教育活動を可能にしています。また、「御開場式」といった首里王城伝統の古式行事参加や旗頭等の地域行事、PTA主催の創立記念行事、キャリア教育と関連させた特別活動の充実にも繋がっています。

加えて、今年度から英語科専科教師が配置されました。グローバルな活躍が期待される子ども達において英語教育は必須です。英語専科体制やGIGAスクール等、新たな課題に柔軟に対応する教師一人一人がまさに「自立した学習者」とい



御開場式に臨む城西っ子

う行動規範を示し、OJTの充実を図らなければなりません。これからも子ども達が「自立した学習者」となる素地、土壌づくりに取り組みます。

(二) 授業改善で子ども主体の学びをつくる

地域行事が下支えとなっている本校は、子ども達の学習参加意欲や自己肯定感が得にくい状況が続きました。また、教師の学びの場である授業研究が滞り、質のよい授業が生じにくい状況でした。

そこで学級・学校の「安心・所属・承認・自立」を合い言葉に、さまざまな教育活動再開・再編の一年と位置づけ、授業改善の一步として小中一貫教育と校内研究合同の授業研究会を行います。

授業者は、児童一人一人の学習を見取り、単元指導計画、発問、評価等、普段の授業改善を進めていく必要があります。それは教師の個の力を高めるとともに、学年、学校組織として大きな力となります。また、小中一貫教育に位置づけることで、学校間、校種を超え、地域で成果課題を共有し、質のよい授業が循環し、地域の教師力、児童生徒の確かな学力の育成につながると捉えます。

学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現と「学力向上推進五か年プラン・プロジェクトII・自立した学習者」を柱に、さまざまな学習ツールを活用し、児童の深い理解を促すよう工夫します。また探究型授業の対話における聴くことを重視する授業展開により、子どもが学び・育ちを実感できるよう工夫して参ります。

三 終わりに

働き方改革の推進や、インクルーシブ教育、積極的生徒指導の充実等、本校の課題解決は魅力ある学校づくりと直結しています。困難を成長するチャンスと捉え、教職員一人一人の働きがい・生きがいにつながるよう、高次なサポートに徹するとともに、進むべき方向性が示せるよう学び続けていく所存です。

新任校長としての抱負



『和の心』を胸に自立的に学び、考え、
実行できる生徒・教職員の育成を目指して

糸満市立三和中学校 校長 宮里直哉

一 校訓「和の心」

三月、前任の與島康仁校長先生は引継ぎの際、次のように話されていました。「和の心」を大切に学校経営を取り組んできました。」

太平洋戦争において、国内唯一の地上戦が行われた沖縄では、昭和二十年三月から三か月にわたって吹き荒れた鉄の暴風によって、一本一草焼きつくされ、山野は破壊し地形は一変しました。糸満市においては人口の四十%を超える一万人余りの人々が戦死しています。特に、三和地域の旧真壁村、旧喜屋武村、旧摩文仁村は戦死者が多く、生存者が激減したため三村合併を余儀なくされ「三和村」となった経緯があります。沖縄戦最後の地となった三和地域では、村の復興は戦死者の遺骨収集から始まったといわれ、早くから各部落に慰霊塔が造られ、のちに各都道府県や各種に慰霊碑が建立されました。

三和地区では、多くの人々が死に絶え、多くの人々が生き延びた戦跡地の中枢であることから、「生命の尊さ」や「平和を守ること」を戦後七七年間、地域の方々の努力や苦勞によって受け継がれています。

沖縄戦終焉の地である摩文仁の丘を校区とする本校では、総合的な学習の時間において、全学年の「平和学習」を明確に位置づけています。また、一九九六年（二六年前）には、地域の方々の協力のもと、校区内の慰霊塔（碑）やガマなどの調査を行い、平和学習教材「三和地区の慰霊塔・碑・ガマ」を発行しています。この学習教材は、三和中学校のすばらしい財産であり、平和学習教材としても価値が高いものです。

校訓でもある「和の心」。復帰五十年にあたる今年、校長講話の中で、私は生徒にこう話しました。「和の心」とは、お互いの事情も考えも違う人たちが協力し合い助け合って共に幸せに暮らすことを願い、努める心のこと。他人の喜びを自分の喜びとして、また他人の哀しみを自分の哀しみとして喜びも哀しみも共に分け合って生きる心のこと。三和中はその心が引き継がれてきた学校です。その心を大事に、発信していく学校にしましょう。」

二 校区の概要と本校の様子

本校は、沖縄本島の最南端に位置し、南は太

平洋、西は東支那海、東は具志頭村、北は高嶺校区に接し、字真壁にあります。東西南北六kmの広々とした地域で字喜屋武、字摩文仁は通学距離四kmもあるため、自転車通学も認めています。

本地域は、全地域が純農村地域で、作物はさとうきび、野菜、たばこ、花き栽培が主であり、時期が来ると菊の電照栽培で夜間の畑が輝いています。

保護者も「地元愛」が強く、学校教育に対する関心・学校に寄せる期待は大きいと感じます。

これまでの卒業生は一一七八九人。（令和四年三月現在分校除く）現在の在籍生徒数は一八九人。実直で、人懐っこい生徒が多く、何でも柔軟に受け入れることができるのびしろいっぱい雰囲気があり、楽しみです。しかし、地域コミュニティの縮小や少子化により生徒の人間関係が固定化しやすいといった面もあるため、多様な体験や多くの人的な交流機会を増やすことを考えています。

三 めざす学校像と手だて

○生徒が主体的に学び合う学校

本県の「学力向上推進五か年プランプロジェクトII」に沿って、授業の質的改善・学校改善を次の三点ですすめています。

- ① 三和中学校授業スタイルの共通理解を図り、(SJT)IIしっかり聞く、じっくり考える、要点をまとめる、ていねいに話す)生徒の主体的学びを促す日常実践を推進する(組織的な関わり)
- ② スケジュール管理による自主学習を推進する(自己肯定感を高める)
- ③ 単元の観点別評価・評定を生徒へフィードバックし、教師自身の授業改善を促す(学び

育ちの実感) ※本校では、定期テストはなく、定着度を測る実力テストを二回実施する

○支持的風土のある学級・学校

本校では「社会的な自立」を目指し「支持的な風土づくり」を次の三点ですすめています。

① 基本的な生活習慣(みそあじ身なり、掃除、あいさつ、時間のけじめ)を身に付けさせる(安心)

② 道徳のローテーション授業やソーシャルスキルトレーニングなどで、自己肯定感・道徳的実践力を高める(承認)

③ 生徒会活動や行事を通して、課題に対しての解決策を練り上げ、実践する生徒の育成を図る(所属、自立)

そのほか、問題行動には毅然とした態度でのぞみ、生徒会、部活動を通していじめを許さない活動を推進する、校内研修を通じて、アイチェックの活用方法等生徒が「承認」を得られる指導を学ぶことをすすめています。

○働き方改革をすすめる学校

教職員が心身ともに健康を保つことができる環境を整え、子ども達に効果的な教育活動を持続的に行うことができるようにするため次のようにすすめています。

① 部活動について

・積極的な部活動指導員、外部コーチの配置、部活動下校時間の見直し

② 校則の見直し : 五月より校則の見直しを本格的に行い、二学期に公表予定。校則指導を減らすことで教師の負担軽減につなげた

③ 学校運営協議会

・保護者や地域住民等と生徒に育むべき資質・

能力等の教育目標を共有し、学習支援や環境整備、道徳心の醸成などに関わるボランティアを募集する

四 育てたい生徒像

二年余りのコロナ禍、当初は、臨時休業期間の過ごし方や学校再開後の学校での行動様式は、十分な準備ができないまま手探りな状態で対応せざるを得ない状況でした。緊急事態だけに、日頃からの生徒への指導が問われることにもなりました。

このような緊急事態に備えるためにも「主体的・対話的で深い学び」の実現は、平日頃から受け身でない、能動的な学びの姿勢を育成していくことがきわめて重要であるということ職員と再確認をし、見直しを持ち何をどのように学んでいけばよいかを考え実行できる力、根拠に基づき論理的に考え適切な行動ができる力、が身についた生徒を育てていくことに尽力していきたいと考えています。

五 育てたい教職員像

学びて足らざるを知り、

教えて及ばざるを知る

常にこの言葉を念頭に、教諭のステージでは、教材研究や学級経営に没頭し、生徒指導に悩み、行事に燃え、教頭のステージでは、教職員の教師力を高めることや地域連携に、と自分なりに努めてきたつもりです。

校長となった現在、これまでの教員生活の集大成という意気込みと同時に、構えず受け入れる包容力と覚悟の必要性をひしひしと感じてすごして

います。また、教職員にも子ども達と同様に、課題に対しての協働して解決策を練り上げ、実践する教師力を身につけてもらう必要性を強く感じています。

「学びて足らざるを知り…」の言葉をまた念頭に置き、職員からも学びながら、共に成長することも私の使命、と強く肝に銘じています。教職員を信じ、任せ、認め、感謝することを忘れることなく、生徒・保護者・地域に貢献できるように尽力していく所存です。



和の心の石碑

特色ある学校づくり



『学び合い』とSSTを通じた 「つなぐ」を意識した学校づくり

多良間村立多良間小学校 校長 与座 篤

一 はじめに

多良間村は、宮古島と石垣島とのほぼ中間に位置し、面積約二〇km²で楕円形をした多良間島と、約八km離れた水納島の二島からなり、海と森に囲まれていて、「日本で最も美しい村」連合に加盟している。人口は約一千百名、基幹産業は農業で、さとうきびを中心に葉たばこ、野菜等の農作物が栽培されている。また、畜産業も肉用牛を中心に盛んに行われ、現在四千頭余の肉用牛が飼育されている。

多良間村は、伝統行事を大切にしている。国指定重要無形文化財に指定されている「八月踊り」には多くの児童が役割を得て参加するので三日間は休業となる。(過去二年間は新型コロナウイルス感染症防止のため中止となった)近年は、新しい芸能「ふしやぬふエイサー」を創作し、伝統にしたいという活動もあり、子供たちへの普及を目指している。多良間島には高等学校がない



ので、子供たちは中学校を卒業すると、多くは沖縄本島のそれぞれが志望する高等学校へ受験・進学する。ほとんどの生徒は親元を離れた生活を行うこととなる。いわゆる「十五の島立ち」である。小学校としても島立ちに向けて、精神面や生活面の自立を期しての支援を、低学年から意識的に取り組んでいく必要がある。

本校は全校児童六十四名である。また、特別支援学級(三学級)に十二名が在籍している。このように、多様な特性の児童集団において、自立を目指し、自己肯定感を育むためには、児童一人一人の特性を互いに理解し、協働的な学びをすすめる、成長の実感を得させることが重要である。

二 取組の実際

中教審答申では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の重要性が提言されている。また、沖縄県学力向上推進五か年プラン・プロジェクトIIには学力向上推進の三つの視点「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」が示されている。

本校で取り組んでいる「つなぐ」を意識した授

業づくりは、「個別最適な学び」「協働的な学び」および三つの視点に向かう取組になる可能性があると感じている。そこで学校教育目標を整理し、育てたい資質・能力を「成長の実感」として焦点化した。前年度までの取組も踏まえつつ、取組の重点として『学び合い』と『ソーシャルスキルトレーニング(SST)』を取り入れることを決め、実践的な方法や内容等については、全職員であるいは各部会で確認しながら、校内研究として日常的な授業改善を進める事とした。

① グランドデザイン

学校教育目標に向けての取組であることを視覚的に強調し、校章の旭日と波のイメージを取り入れた図案とした。



② 学び合い

児童同士が思考や表現をつなぐためには、学級が児童にとっての居場所となつていく必要がある。支持的風土をつくることも重要であることと、主体的な





学びとその実感を得させるためには、教師の解説や説明を減らして児童同士の会話を増やすことが重要であることの認識を全教職員で共有した。そこで、「目標・課題の全員達成を目指す」「一人も見捨てない」「子どもには能力があることを信じる」ことを重視する『学び合い』（西川純提唱）の実践を職員に提案した。

校内研究では、学校教育目標に向かっていくことを確認しながら、具体的な方法については職員集団に任せることとした。具体的な実践は主に次のとおりである。

- ・オンライン講演の実施
四月の校内研修会で西川純氏の講演会を実施し、『学び合い』についての理解を深める機会をつくった。
- ・実施教科を広げる
前年度は算数科の授業に学び合いを取り入れたが、今年度は他教科での実践を模索する。
- ・互いの授業を見せ合う
日常的に互いの授業に入る事を許す雰囲気作りを進める。校長の授業観察も毎日実施する。

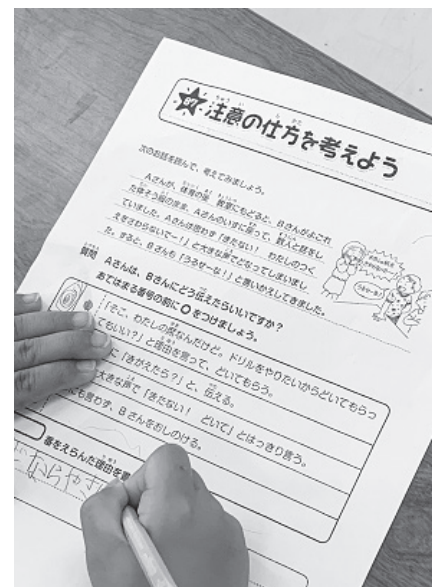
・授業づくりについての対話の機会
月曜の職員集会の前に、二週に一度、十五分間の時間を設けて、授業づくり、学級経営、児童の様子などの実践事例や困り感を出し合うこととした。翌朝のSSTの題材もこの時間で拾い上げている。

- ③ ソーシャルスキルトレーニング（SST）
児童同士の人間関係の改善・向上は児童の自己肯定感の育成に不可欠である。本校児童集団の特徴として、言葉の使い方や伝わり方について無自覚的で未学習なことが多いとの課題が挙げられている。そこで、昨年度からSSTを取り入れた学級経営を進めることを確認した。昨年度は星槎大学大学院の阿部利彦氏のオンライン講演会を二度行い、SSTの理解を深めた。今年度の主な取組は次のとおりである。
- ・全校一斉に実施する時間を設定する。
- ・二週間に一度、朝の十五分間に行う。
- ・市販の書籍のワークシート集を活用する。
- ・SSTの基本的な流れは左図のとおり
- ・ソーシャルスキルの定着に向けて授業や行事などの各場面で声かけや確認を行う。

多良間小学校 SSTの基本的な流れ

- ① **インストラクション**
・目標とするスキルや、それを獲得する重要性を説明する。
- ② **モデルの提示**
・具体例を演じて見せる。
・ペープサート・ロールプレイにして場面をイメージする。
・ゲーム・話し合い活動の始めに行動の確認
- ③ **行動リハーサル・伝え合い**
・実際の場面を想定して、繰り返し練習する。
・ワークシートを記入して伝え合う。
- ④ **ふり取り・まとめ**
・向上したスキルや自分の気持ちの変化をシェアする。
・ワークシートのまとめを書く。

(参考資料)
教育技術
あたまと心で考えよう SSTワークシート



(ワークシートの例)

- ④ 校長の関わり
・ビジョンの提示
学校ブランドデザイン
児童一人一人の居場所づくりの意義
授業改善の方向性（授業観の確認、目標の確認、理論の確認 など）
- ・授業観察
観察の観点の提示
フィードバック・承認
必要に応じた示範授業の実施
週案のコメントによる激励

三 おわりに
教職員とともに授業改善の取組を進めてきた。校長の授業に対する考えを概ね受け入れてもらい、心強く取組を推進することができている。今後とも全職員が協働的に参画できる学力向上推進を目指したい。また、新型コロナ感染症対策が収束に向かう中、地域への貢献のあり方を模索し、地域社会と共存する学校であり続けたい。

特色ある学校づくり



地域とともに、

笑顔あふれる学校をめざして

石垣市立富野小中学校 校長 市原 教孝

一 校訓「美ら心」

(一) 苦業をともにしてきた開拓集落

本校は一九五二（昭和二十七年）四月二十九日、川平小学校富野分校として児童七名で開校した。教諭は大田正吉先生一名だった。校舎は集落の住民が協力して建てた。同年十月、米軍による基地建设によって農地を奪われた読谷村の家族が開拓団として移民、学校は中学生を含む二十四名もの転入生を迎えることになった。大田先生は一人で九学年三十一名もの子どもたちを受け持った。校舎の増築作業をこれまた移民家族も含めて住民総出で行った。翌年二月になってやっと中学校が認可され、教諭一人が配属された。翌月、小中学校九名の第一回卒業式が挙行。激動の一九五二年度であった。



ンネル開通し市街地が近くなったこと、他県からの移住者の増加、市営富野団地の建設等により、平成以降はほぼ現在のような児童生徒数（現在児童九名、生徒七名）で推移している。

二〇〇二（平成十四）年、創立五十周年記念式典を挙行了。その記念事業として、校門前に「美ら心」の文字を刻んだ石碑が設置された。校訓の誕生である。苦しい時こそ互いを思いやり、支え合い、協力し合って生き抜いてきた地域住民の熱い思いが刻まれている。

(二) 地域の絆

① 住民総出の運動会

昨年の運動会は感染拡大を恐れながらも、保護者からの強い要望を受け、校区内住民を招いて開催することにした。結果として、この判断は正しかったようだ。綱引きにはほぼ全住民が参加してくれた。中でも驚きは高齢の女性。彼女は杖をつきながら綱を引いてくれた。地域へのあふれる想いを実感した。また、縄のない競争も驚きで、十代の若者



も含め全住民で盛り上げてくれた。「運動会は年に一度、住民がお互いのつながりを確認する大切な場なのだ」と強く感じた。

② 幸せの黄色いハンカチ

運動会後、万国旗を降ろすと同時に「幸せの黄色いハンカチ」を掲げた。「どうかお元気で過ごしてください。来年も必ずこの運動会でお会いしましょう」とのメッセージだ。故・高倉健さんと本校のつながりは二十年以上前のことになる。平成十一年、健さんは偶然にも本校の運動会、縄なし競争を見ることとなった。その時の様子を著書「旅の途中で」の中で次のように紹介している。「思わず一生懸命手を叩いていました。この厳しい自然の中で、人との絆を大切にしないと生き抜けない、そういう島の人たちの心の在り様を、世界に誇れる日本の風景と感じて、鳥肌がたつたのを、今思い出します。」その健さんも平成二十六年十一月、八十三年の生涯を閉じた。以来、本校は十一月を「高倉健さんの思いを受け継ぐ月間」と設定、絆を大切にしたいを再確認している。

二 地域から学び地域に貢献する探究学習

(一) 学校教育目標「自立・共生・貢献」

三年目を迎えたコロナ禍。終始マスクをつけたままの授業、給食をランチルームから教室に運ぶでの「黙食」、子どもたちの不自由な日常を見るたび胸が痛む。加えて卒業・入学式の入場制限、運動会や修学旅行の短縮、「仕方ない」と思う一方、子どもたちから楽しみを次々と奪ってきたようであり、申し訳ない思いが募る。

長引く不況、国内産業の凋落、パンデミック、SDGs、グローバルスタンダード、GIGAスクール、ウクライナ紛争など、世の中が激変して

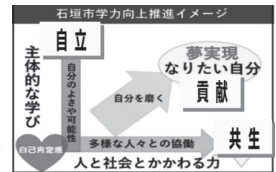
いる。我が国はすべてを無批判に受け入れ流されているかのように映る。

自分なりに判断し（自立）、多くの人と議論し（共生）、「地域に根ざし、笑顔あふれる学校」を経営しよう（貢献）と考え、今年新たに学校教育目標「自立・共生・貢献」を掲げた。またこれを実現すべく総合的な学習の時間のテーマを「地域から学び、地域に貢献する探究学習」とした。昨年度からその準備のために地域を歩き回っている。以下、出会った人々と学習素材のいくつかについて紹介する。

（二）校区は人材と学習素材の宝庫

①食の安全と健康
「米原の海塩」を製造する上地源開氏は「マグネシウムには筋肉を緩める働きがある」と語った。彼は海水をくみ上げ、薪を燃やし、「天然塩」を作っている。成分表示を見ると、マグネシウムやカリウムが豊富に含まれていることがわかる。「これを使い始めてから、ぼくは血圧もコレステロールも下がったよ」、「食塩は塩化ナトリウム。大切なミネラルは全部捨てられる」などと熱弁した。「塩分の摂り過ぎが高血圧の原因」と信じ込んでいた私には衝撃的な話だった。「敵に塩を送る」とは「相手の苦境を救う」という意味である。だからやはり天然塩特にミネラルは生命維持に不可欠なのであろう。

自分で調べて納得すると調べることが楽しくなる。納得しても新しい課題が次々と見つかる。新学習指導要領が目指す「資質・能力」とはこういう力なのかもしれない。



②循環型社会
校庭には「やしの高木」がたくさんそびえている。ヤエヤマヤシという石垣島と西表島にのみ自生している希少種なのだそう。悩みはおびだしい落葉。片づけがひと苦労である上、高木から落下する重い葉は、車両に落ちればへこみを生じさせる破壊力だ。処分に困り、上地氏に相談したところ「うちに持っておいで」と言ってくれた。運搬を数回繰り返したあと、上地氏から大量の天然塩をご寄贈いただいた。給食で使わせていただいている。「母校の役に立てたらうれしいさ。」と笑顔を見せてくれた。

③環境教育

校長室に蝶の標本がある。オオゴマダラ、ツマベニチョウ、アオスジアゲハ、実に色鮮やかな標本だ。故内藤寛氏（元校医）よりご寄贈いただいたものだ。先日、息子の内藤明氏が来校した際、これを披露したところとても喜んでもらった。彼曰く「石垣島はたくさん種類の蝶が舞う世界的な蝶の楽園」なのだそう。彼は今、祖父が愛した石垣島の持続可能な開発を支援する活動を続けている。「珊瑚」から始まった活動フィールドは「海中ほ乳類」、「農地や森林」、「教育」、「地方創生」、「GISと人工衛星」など年々広がっている。今年度は本校の珊瑚観察や環境学習の講師として活躍してもらっている。



④郷土文化の伝承
東輝文氏は北海道出身。八重山の豊かな自然や独特な文化に惹かれ、二十年前に移住。異例の早さで八重山古典民謡コンクール最優

秀賞に輝き、十五年前に本校の三線教室講師にスカウトされ、今も務めてくれている。本業は陶芸家で「米子焼工房」で作品の製作をしながら経営も手伝っている。近年は「趣味で養蜂を始めた」そう。先日は「漂着した軽石の中にペリドットが見つかるよ」と教えてくれた。



⑤月桃籠バッグ
本校図書館司書として勤務する佐々木美梢氏は広島県出身。明石集落から通勤している。このほど、明石集落に住む方から月桃籠バッグの作り方を習い、昼休みや放課後、子どもたちに編み方を伝授してくれている。この日は「お母さんの誕生日のプレゼントにしたい」と女生徒が楽しそうに編んでいた。

三 終わりに「学びに向かう力・人間性」
今年十一月二十七日、本校は創立七十周年記念式典を開催する予定である。

池原健昌氏は今年八十五歳。「いくさ世」に生まれ、少年期に故郷との別れを余儀なくされた。両親と幼い弟妹とともに未開の地に移住。密林を開墾しながら生き抜いてきた。現在も広大な農地を一人で守り、毎日バナナなどの果実栽培や山羊の飼育などに精を出している。本校在籍は記録上はわずか一ヶ月だが、敬愛すべき本校第一期卒業生である。池原氏に当時の苦勞を聞くと「もう覚えてないさ」と苦笑された。穏やかな人柄には校訓「美ら心」が垣間見える。今、日本の教育がめざす「学びに向かう人間性」のモデルがここにあるように思う。



校長講話



元気に、そして
思いやりのある子への願いを込めて

名護市立久辺小学校 校長 上間 享

一 はじめに

本校は、明治二十三年に創立され、今年度で百二十七年を迎える。児童数は、一四五名で各学年単学級と支援学級三学級の九学級である。校区は、久志区・豊原区・辺野古区の三つで、久志区は徒歩通学は厳しく、登下校は保護者の車や下校時には、区老人会が分担をしてワゴン車で迎えている。

学校の体育館前には、本校のシンボル「根性松」がある。樹齢約二百年と言われているが、幹が途中で直角に曲がり、枝葉が横に広がっている。また、幹の中央部は朽ちて空洞になっているが、残りの半分で木全体を支えている。その状態だが、枝・葉もみごとに青々としている。これが「根性松」の由来である。

学校は、市の中心地からは少し離れていて、近くの小学校とも距離がある。敷地は、中学校と隣接していて、地域は「わったくし学校」として、学校に大変協力的である。ま



た、スポーツが盛んな地域で、野球、陸上競技、相撲等で活躍している先輩も多い。

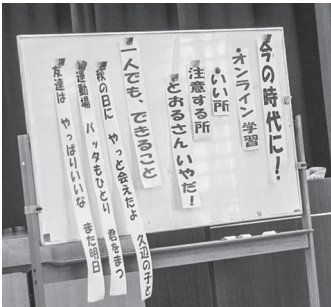
二 校長講話について

本校で校長として三校目である。どの校長先生方も同様だと思うが、通常の授業で児童と関わることがない立場、この「校長講話」が、子ども達に直接話をする貴重な場である。ぜひ、一回一回を大切にしていきたい。

ところで、学校規模にもよると思うが、子ども達の表情を見ながら語りたい思いから、現任校では機器の活用せず、ポイントなる言葉を紙に書いて表示し話を行うようにしている。

講話に際して

- 計画 儀式行事がある月以外に設定
- 内容 一年を見通して大まかに計画するが、その時々
- 方法 情勢によつて調整する。



三 講話の実際

・シナリの作成（児童向け）
・職員にも配布（講話の内容をまとめたレジュメを事前配布）職員にも、私の思いやまた事後に子ども達と話をする場合の参考になるように。
終了後は、使用した見出し等を校内（児童玄関）に掲示する。講話の振り返りや来客者（保護者）への紹介も兼ねて。

ある年度の校長講話等の実践例

回	月	題	内 容	備 考
1	4	スタートにあたって	教育目標等	始業式
2	5	夢	なりたい自分	
3	6	命の大切さ	養護施設での事件から	
4	7	夏休みへ	夏休みの過ごし方	終業式
5	8	表現の仕方	人にわかりやすく…	始業式
6	9	今の時代に	どのように過ごすか	
7	10	誠実に生きる	絶対にだます事のできない人	
8	11	夢の続き	気分転換の方法	
9	12	一年の終わり		終業式
10	1	新年を迎えて		始業式
11	2	物の見方考え方	物事には、いろいろな側面がある	
12	3	ふるさと	友達・地域愛	6年生を送る会
13	3	一年間を振り返って		修了式

実践例 今の時代に

令和三年度九月（児童用シナリオより）
（一）GIGAスクール
（二）一人でできること
みなさん 久しぶりの全校集会ですね。二学期はもちろん、一学期の終業式も台風接近で「校内放送」での式でした。全校集会は、三ヶ月ぶりくらいかな。



しかし、コロナが完全に収まったわけではないので、その対策は続けていきます。さで、これまでしばらく、分散登校や三年生以上はオンラインでの学習もしながらでした。今週から、いつもの学校生活がスタート

トしましたが、どうですか。

みなさんもそうですが、先生方も初めての経験です。でもその学習で、いいところや少し心配なところもあります。今、社会全体もそうですが、学校でも初めての出来事があると思います。

そこで今日のお話は、「今の時代に」です。「前の普通の生活よかったな」と思っても、誰もどうすることもできません。今日はそれに関するお話をしたいと思います。

(一) GIGAスクール

GIGAスクールといって、授業やいろいろな活動に役立ててほしいということで学校では一人一台のタブレットが配られました。それは、みなさん一人一人の個性に合わせた学習もできますね。

〇いいところ

- ・一人でも学習できる。
- ・調べたい事がすぐ調べられる。
- ・どこでも学習できる。

(たとえば、自宅でのオンライン学習)

〇心配なところ

- ・いろいろな情報がありすぎる

(なかには、本当のことではない事も)

- ・自分できちんとルールを守らないといけない
 - ・活字の怖さがある(例…〇〇さん、いやだ)
- 今週からいつも通りの学校生活ですが、今後、どうなるか分かりません。また、オンライン学習で家で、タブレットを使う機会もあるでしょう。スマホもそうですが、「いい点」「注意する点」も気をつけて。そして、せつかく一人一台のタブレットがあります。普段の学習でも、いろいろな活用していきます。

(二) 一人でできること(一人の時間が増える)

昨日、午後の休み時間、五年生仲良く運動場で遊んでいました。校長先生も、楽しくなりました。しかし、夏休みの間もそうだったでしょう。みんな、夏休みが終わると、みんなどこかへでかけることも少なくなりました。これからは、しばらくはそれが続くと思います。

このような時間が続きます。そこで、せつかくの機会です。TVをずっと見る、ゲームをずっとするだけではもったいない。なにか「一人でできること」を見つけてみましょう。

読書もいいね。絵を描く(漫画)も。ピアノも。ダンスも、体操(ストレッチ)、走ることも。何かできそうなことがあつたらやってみよう。

例 俳句

一人でもできること、たとえば俳句。最近、TVのバラエティー番組でもありますね。芸能人が俳句を考えて、プロの人が点数をつける等。

「俳句とは日本に昔から伝えられている文の書き方の一つです。五・七・五の十七音という短い文で作られていて、世界で一番短い文だと言われています。」

「日本には春・夏・秋・冬という四つの季節が

あります。その季節らしい言葉が「季語」校長先生も、考えましたよ。

- ・ 秋の日に やつと会えたよ 久辺っ子と
- ・ 運動場 バッタもひとり きみを待つ
- ・ 友達はやつぱりいいな また明日
- ・ さあ、みなさん、何か一人でもできることも考えて、この二学期も楽しく頑張りましょう。

今の時代に【職員事前配布用】

やつと、今週から通常登校になりました。そんな状況で、講話で子ども達にどんな話をすればいいの？ この「重苦しい状況下」

そこで今回は、「今の時代に！」という題で…
もう？ いや、少なくともしばらくは、以前のような生活には戻れないでしょうね。みんな(グループで)わいわい言いながら学習したり、楽しんだりするのはしばらくは避けなければなりません。

そんな状況では、「一人を楽しむ事」が必要となります。大人も子どもも…

それで、①まずは、GIGAスクール構想のなかでタブレットを活用したオンライン学習について、よい点と注意すべき点について

次に②一人でもできる事、なげいているだけでもいいので、一人だからできる事を、一人でも楽しい事を考えていきましょう。との思いで…

少し「俳句」も紹介。今、TVのバラエティー番組でもやっている、低学年も分かるかな。みんなキョトンとしたら、先生方フォローしてね！ 先生方は、何をしますか。

四 おわりに

この講話の短い時間の中で、校長の思いや願いを子ども達に伝え、自己を振り返ったり、今後について考えてもらおう。そんな機会にしたい。子ども達の学校生活での頑張りや励まし応援したい、それを伝える場でもある。

また、先生方には、ぜひ講話の趣旨を理解し、それを学級でも活用してほしい。

この数少ない回数・時間だが、子ども達が「元気でそして、思いやりのある子に育ってほしい」それを願って！

校長講話



未来を切り拓く嘉中生の姿を求めて ～人間性の涵養～

嘉手納町立嘉手納中学校 校長 長 嶺 加恵美

一 はじめに

本校は、創立七十五年目を迎え、旧沖縄県立農林学校や青年師範学校の跡地に立地している嘉手納町唯一の中学校です。校区には、琉球史上有名な阿麻和利が生誕したグスク説の残る「屋良城跡」や自然豊かな比謝川、琉球産業の恩人・甘諸発祥伝来で名高い野國總管宮があります。本年度の生徒数は四百四十八名、教職員数三十二名の中規模校です。学校教育目標「主体的に知性を高め、自他を認め、協働し合う生徒を育てる」の具現化を図るため、生徒会主体による「学校をつくろう」をスローガンに、生徒・教職員が「丸」となっており、魅力ある学校づくりに取り組んでいます。

二 校長講話について

予測困難な時代を生き抜いていく子どもたちにとって、社会との関わりの中で必要とされる資質・能力の一つとして「学びに向かう力・人間性等」があります。それを受け、校長講話のテーマを「人間性の涵養」としました。「土に水が染みこむように、時間をかけて丁寧に育みたい」その思いを礎に「人としてよりよく生きる上で大切なものは

何か」等、道徳的な側面（道徳の内容項目との整合性）から生徒の琴線に迫り、メッセージを発信し、生徒や教師とつながる一期一会の瞬間（講話）を年間を通して紡いでいきます。

講話は、毎回二十分という短い時間の中で、時宜を得たテーマや構成、写真、音源、ピアノ、動画等を織り交ぜながらプレゼンを作成するようにしています。

ここ数年は、コロナ禍に伴い、全校生徒・職員を対象に対面による講話ができず、オンラインで発信することが多いことから、声の抑揚やスライドの紹介、問いを引き出す等の工夫に努めています。

尚、本年度の講話の計画は次の通りです。

○五月「本校の歴史に学び 未来に向かって羽ばたこう強く気高く生きる」

○六月「復帰五十周年を考える」

○七月「夢をあきらめないでくパラリンピック選手から学ぶ」

○八月「SDGsはできることから」

○十月「広げよう合唱の輪 深めようクラスの和 ～嘉中ハーモニーここにあり」

三 講話の実際

五月の校長講話テーマ「本校の歴史に学び 未来に向かって羽ばたこう強く気高く生きる」の実際を紹介いたします。

嘉手納町は、野國總管の遺徳に学び「進取の気象」「国際性」「社会貢献」を教訓とし、本町教育目標にその理念が色濃く盛り込まれています。その理念を生徒に理解させるために、本町や本校の歴史、先人たちが築いてきた軌跡や生き方に触れさせ、愛校心や地域愛を育み、さらに、誇りをもって自身の生き方に繋げ未来像を描くことができる生徒の育成を目的としました。（道徳の内容項目D-22よりよく生きる喜び）



講話を構成するにあたっては、中学校社会科副読本「嘉手納町の歴史と文化」を編著された伊波勝雄氏に取材し、本町（本校）の歴史や偉人について学ぶとともに、伊波氏から生徒たちへのメッ

セージを頂きました。

○導入（四分）生徒の学校生活や取組をスライドで振り返り、全体で共有・賞賛する。

○展開（十一分）「テーマ」は、最終時で生徒に問うことを確認し、心して聴くよう促す。

聴くポイントとは、歴史を知ること、先人の生き方に着目させる。一以下、内容説明

・校庭にある石碑を示し、戦前一九一六年本校地に「県立農林学校」や「青年師範学校」があつたことを確認する。

・一九四八年屋良中学校として本校創設、同年十二月嘉手納中学校へ改名。

・一九四九年校章制定、当時の茅葺き校舎の様子を確認する。また、校章に込められた思いを確認する。

・一九六四年校歌制定、歌詞の意味ついて知る。（比謝川への恩恵、野國總管の教え、勤労の精神、立志の精神）

・一九八九年「何故、立志門が立てられたのか」と問い、生徒に思考させる。

※「志を立てて、世界に翔け」という高い理想を込めて、創建されたことを知る。

・一九九六年女子ソフト部が九州大会へ出場、かわきりに他の部の活躍が継承した。

※今の自分たちと重ね合わせて「嘉中プライド」をもつことの大切さを知らせる。

・二〇〇二年新校舎落成、二〇〇七年体育館落成に続き、県内で初めて職場体験学習や二期制を導入したことに触れる。

○終末（五分）伊波勝雄氏からのメッセージを紹介し、各自に考えさせる場面を設定した。

・嘉手納町（嘉手納中）には、先人がつくりあげてきた歴史や文化があり、将来の「嘉手納

町の歴史をつくり、未来を拓く主人公」、町づくりの担い手が嘉中生一人ひとりである。いつの時代も先人達は、広い視野で物事を捉え、新しいことに挑戦し、よりよく今を生きていることができたことを共有しまとめた。

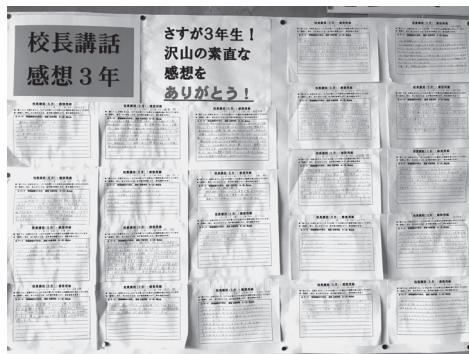
・「今日の講話のテーマは何ですか。」と問い生徒に思考させる。回答として「本校の歴史に学び未来に向かって羽ばたこう強く気高く生きる」ことを確認した。

四 講話の振り返り

講話終了後、生徒全員に感想としてまとめさせ、その中から幾つか学年掲示板に掲示し、生徒間の交流を行っています。その中から「よりよく生きる喜び」を実感し、未来を切り拓こうとする生徒の感想を紹介します。

【生徒の感想】

○今私が学んでいるこの地は一〇六年もの歴史があり、沢山の先代の方々が嘉手納町のために様々なことを学んできた場所だと分かりました。その方々のお陰で今の嘉手納町はこんなに住みやすく、子どもたちの学びの環境が整い、とても町民に寄り添った町になったんだと感じました。又、本校の学びの教えは、野國總管や伊波勝雄先生



達が今まで繋いできたお陰であることが分かりました。今の私達は先代の様々な人のお陰で成り立っている環境なので、私達も未来に繋いでいこうと感じました。

（二年女子）

○省略くこんなに沢山の素晴らしい歴史があることを初めて知り、本校に通えていることをすごく誇りに思います。私達も嘉手納中の歴史に何か良い形で残したい。そして、これから起こるであろう全てのことに全力で取り組みたいと思います。今回の講話は自分にとって良い機会となり、ありがとうございました。

（三年女子）

五 おわりに

毎年、校長講話を立案する際「生徒や先生方との一期一会の瞬間をどう演出できるか」千思万考の場面です。しかし、その過程は、校長としてのミッションであり、かけがえのない時間だと考えます。生徒一人ひとりがよりよく社会に生きていくために必要とされる「人間性の涵養」に着目し、年間の講話計画を実践することによって、子どもたちが自分の足元である嘉手納町を見つめ、町を愛し、心豊かに力強く生き抜くことができるのであろうと信じ、日々心に染みる講話づくりに取り組んでまいりたいと思います。

沖縄県小・中学校長会会報第82号

発行者 沖縄県小・中学校長会
住 所 那覇市松尾1-6-1 (沖縄県教職員共済会館八汐荘3F)
電話 098-943-9747 FAX 098-943-9748
E-mail: oki-koutyukai2@kca.biglobe.ne.jp (事務局長)
oki-koutyukai1@kpe.biglobe.ne.jp (事務局員)

印 刷 株式会社 国 際 印 刷
電話 098-857-3385 FAX 098-857-3892
E-mail: kokusai@herb.ocn.ne.jp
